

授業科目名	地域イノベーション論	担当教員	佐藤 善信
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第1クォーター		
講義内容	地域イノベーション論では、地域の課題をイノベティブな方法によって解決しながら地域創生を展開する方法論について、実際の地域のイノベーションのケースを通じて実践的に理論的フレームワークを学習する。そのなかでも中心的な概念は、ダイナミック・ケイパビリティ概念とコレクティブ・インパクト概念である。講義内容は、地域イノベーションに取り組んでいる自治体やNPO、民間企業のケースを中心に展開される。ゲストスピーカーにも登壇していただく予定である。		
到達目標	地域イノベーション論を履修することにより、以下の能力が涵養できる。 1. 地域イノベーションとソーシャル・イノベーションの関係を説明することができる。 2. 地域イノベーションに関して、コレクティブ・インパクト概念とダイナミック・ケイパビリティ概念を説明することができる。 3. 地域イノベーションのために、ある程度の戦略立案ができる。		
授業計画	1. ソーシャル・イノベーションと地域イノベーションとの関係 2. 地域イノベーションの実際：徳島県神山町のケース・スタディ（1） 3. 地域イノベーションの実際：徳島県神山町のケース・スタディ（2） 4. 地域イノベーションの実際：徳島県三好市のケース・スタディ 5. 地域イノベーションとコレクティブ・インパクト概念 6. SDGsと地域イノベーション（1） 7. SDGsと地域イノベーション（2） 8. 地域イノベーションの実際：兵庫県豊岡市のケース・スタディ（1） 9. 地域イノベーションの実際：兵庫県豊岡市のケース・スタディ（2） 10. 地域イノベーションと商業集積 11. 地域イノベーションとダイナミック・ケイパビリティ概念 12. 地域イノベーションの今後		
事前・事後学習	事前に配布するケースをケースの課題に従って分析してこること。授業中にケースについてのディスカッションをするので、自分の発言用の分析結果のメモを作成すること。授業後には、講義内容を踏まえてケースについての分析レポートを提出すること。		
テキスト	なし		
参考文献	佐竹隆幸編著『現代中小企業のソーシャルイノベーション』同友館、2017年。その他、授業中に適宜紹介する。		
成績評価の基準	ケース分析レポート（60%）、授業中の発言（20%）、期末レポート（20%）		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	該当しない。		
備考欄			